

私たちオペラ研修所 21 期生は 9/13 日に日本を出国し、10/7 に無事イタリア・ミラノから帰国いたしました。ミラノ研修では、日本では経験することのできないたくさんを経験でき、充実した 3 週間を送ることができました。

私は 4 歳の頃に韓国へ行って以来初めての海外だったので、海外への飛行機を利用することも初めてに等しい状態でした。そんな状態で乗る飛行機も新鮮でしたし、ミラノについては建物の美しさや石畳の感触すらも、写真や映像では伝わりきれないものがあったのだと感動が止まりませんでした。

百聞は一見にしかずと言いますが、人に聞いていて想像していたイタリアよりもミラノははるかに都会的で、それでいて自然を愛していました。そして、教会が至る所にあり、老若男女問わず様々な人が常に祈りを捧げていました。私にはない宗教的な精神がたしかにそこに息づいているのを感じました。

そんな美しい街での研修は日本でのそれとはまた別の角度から私たちに歌とは、オペラとは、芸術とは何であるかを学ぶ機会となりました。

先生方の指導は厳しく、背筋の伸びるものでした。たくさん先生の教わりましたが、そこで思ったのは全員が同じ方向性の声を目指して指導をしてくださっていることです。日本にいるといろんな人が色々な方法で指導してくださいますが、声のことについて厳密に触れる機会が少なくなっていたので、私にとってはこの研修の一番大きく、大切な収穫だったのではないかと思います。また、伝統的な表現方法を学べる傍、現在ヨーロッパでよく演奏されている奏法などもアドバイスをいただけて、日本にいたらなかなか学ぶことのできないレッスンをたくさんしていただきました。

私はミラノ研修に行くまで、海外に興味はありましたが、それはなんとなく行ってみたいというあやふやなもので、そんなふわふわとひた気持ちなら行く必要も無いのではないかと半ば諦めもありました。しかし、この研修を通して、わたしは自分に足りないものを改めて自覚し、それを克服する決意も持つことができました。これはこのミラノ研修がなければずっと持つことのできなかつた気持ちだと思います。このような素晴らしい研修を経験できて幸せですし、貴重な経験をさせていただいたことを心より感謝しています。

ミラノで学んだことがこれからの歌にも活かせるよう、より一層頑張っ参ります。